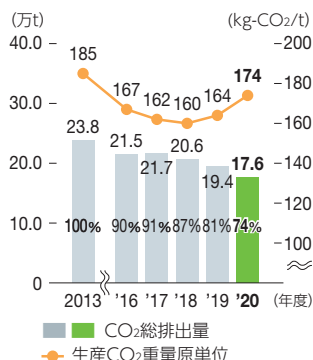


# 地球温暖化防止への取り組み

近年、度重なる集中豪雨などの異常気象は温暖化の影響といわれ、その原因とされるCO<sub>2</sub>排出量の削減に全事業所で取り組んでいます。

## CO<sub>2</sub>総排出量と生産CO<sub>2</sub>重量原単位の推移



## 生産現場におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減

ケイミューの全製造事業所では温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)の削減に向けて、それぞれの事業活動に応じてさまざまな施策に取り組んでいます。主なCO<sub>2</sub>削減活動の具体的な取り組みは、①省エネ設備等の導入や更新、既存設備の改良②生産の効率化によるロス削減などに大きく分かれます。

### 設備によるCO<sub>2</sub>排出量の削減

当社ではCO<sub>2</sub>の排出量を削減する取り組みの一環として、環境性能に優れたエネルギーへの燃料転換を進めてきました。2019年度には鹿島工場においてLPGから都市ガスへ転換をしたことにより、総量、生産量あたりのCO<sub>2</sub>排出を抑制することができました。また、LED照明機器などの高効率照明への更新(小田原、北九州)や、省エネ型機器、設備への更新を推進することで、CO<sub>2</sub>排出抑制を図りました。(足利、伊賀、小田原、鹿島)

### 生産の効率化によるロス削減と省エネ・省電力

製造事業所では、生産の効率化を図ることで省エネに取り組んでおり、コンプレッサーの圧力低減(適正化)設定(伊賀、足利、滋賀)や配管からのエア・蒸気漏れの改善(足利、

小田原、堺、伊賀)など生産効率を高めて省エネ・省電力に直結するさまざまな取り組みを展開し、CO<sub>2</sub>削減活動を推進しました。

2020年度のCO<sub>2</sub>排出量は、生産量の減少の影響と各生産現場における個別の省エネテーマが計画を上回る効果を得られたことにより、前年比9.2%減少で目標としてきた1%以上の削減を達成しました。一方、原単位は生産減にともなう生産効率の低下、高付加価値商品比率の増加、生産ラインでの品種切り替え回数増加にともなうロスの増加で5.6%増加(目標前年比1%以上削減)となりました。

当社ではCO<sub>2</sub>の排出量の削減は、製造業としての重要な責務と位置づけ、今後も継続的に地球温暖化防止に取り組んでまいります。



ACドレン熱回収システム

## TOPICS

### 「カーボン・ニュートラル」への対応

近年、世界各地で異常気象による甚大な被害が起きており、これには地球温暖化が影響しているとされています。その温暖化の要因のひとつに挙げられているのが、温室効果ガス(CO<sub>2</sub>、メタン、N<sub>2</sub>O、フロンガス)の増大です。温室効果ガスを抑制することは世界共通で取り組むべき喫緊の課題となっています。

2020年10月、政府は「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにし、脱炭素社会を目指す」という方針を打ち出しました(「カーボン・ニュートラル宣言」)。

宣言では温室効果ガス(CO<sub>2</sub>、メタン、N<sub>2</sub>O、フロンガス)排出量から吸収及び除去量を差し引いた合計量をゼロ(ニュートラル)にする

ことを目標としています。

これまでの当社の省エネ取り組みの延長では、政府目標の達成が困難な見通しです。今後、代替燃料として燃焼時にCO<sub>2</sub>を排出しない水素、アンモニアの利用、発電時にCO<sub>2</sub>を排出しない太陽光・風力・水力・地熱・バイオマスなどから作られるグリーンエネルギーの積極的な導入(ゼロエミッション火力)など、複合的なエネルギー活用とその体制構築が大きな課題となります。

「2050年カーボン・ニュートラル宣言」の実現には多様で幅広い取り組みを必要としますが、当社ではものづくりを通じて貢献できるよう今後、取り組みを強化してまいります。